

コース		必修選択の別	科目名	単位数	講師
国際教養コース	2	必修	実用外国語Ⅲ	2	新里未沙子
国際教養コース	2	必修	実用外国語Ⅳ	2	新里未沙子
国際教養コース	2	必修	ビジネス外国語Ⅲ	2	英語（レベル別）
国際教養コース	2	必修	ビジネス外国語Ⅳ	2	英語（レベル別）
国際教養コース	2	必修	ホスピタリティⅠ	2	鈴木麻里
国際教養コース	2	必修	ホスピタリティⅡ	2	平野朝子
国際教養コース	2	必修	外国語会話Ⅲ	2	伊藤健一郎
国際教養コース	2	必修	外国語会話Ⅳ	2	伊藤健一郎
国際教養コース	2	必修	総合外国語Ⅲ	2	浅野卓夫
国際教養コース	2	必修	総合外国語Ⅳ	2	浅野卓夫
国際教養コース	2	必修	プレゼンテーションⅢ	2	嵐洋平
国際教養コース	2	必修	プレゼンテーションⅣ	2	嵐洋平
国際教養コース	2	選択	時事研究Ⅲ	2	新里未沙子
国際教養コース	2	選択	時事研究Ⅳ	2	新里未沙子
国際教養コース	2	選択	異文化コミュニケーションⅡ	2	嵐洋平
国際教養コース	2	選択	マーケティング戦略	2	藤重武三
国際教養コース	2	選択	経営戦略	2	藤重武三
国際教養コース	2	選択	比較文化論Ⅰ	2	金森尚人
国際教養コース	2	選択	比較文化論Ⅱ	2	金森尚人
国際教養コース	2	選択	地域研究Ⅰ	2	新里未沙子
国際教養コース	2	選択	地域研究Ⅱ	2	新里未沙子
国際教養コース	2	選択	就職ケーススタディⅠ	2	平野朝子
国際教養コース	2	選択	就職ケーススタディⅡ	2	平野朝子
国際教養コース	2	選択	特別演習Ⅲ	2	嵐洋平
国際教養コース	2	選択	特別演習Ⅳ	2	嵐洋平
国際教養コース	2	選択	課程演習Ⅲ	2	浅野卓夫
国際教養コース	2	選択	課程演習Ⅳ	2	浅野卓夫
国際教養コース	2	選択	キャリアデザイン論Ⅰ	2	鈴木麻里
国際教養コース	2	選択	キャリアデザイン論Ⅱ	2	鈴木麻里
専門必修科目合計				24	
専門選択科目合計				34	
合計				58	

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際教養					
学年		2年					
科目名		実用外国語Ⅲ					
開講期	2026年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15回
担当教員	新里 未沙子						
到達目標							
「実用外国語Ⅰ・Ⅱ」で培った基礎的な読解力を基盤に、より論理的で専門性の高い日本語文章を正確に理解することを目指します。具体的には、社会問題に関する論説文や社説を読み、筆者の主張を的確に捉え、自身の意見を論理的に再構築してアウトプットする力を養います							
講義概要							
本授業では、国内の新聞社説、論説、専門的なコラムなどを使用し、全15回の講義で6つ程度の社会的なテーマを扱います。パラグラフリーディングを通じて論理展開を確認し、口頭でのQAおよび記述課題を通じて、文章の深い理解と論理的な表現力を磨きます							
学修成果							
複雑な文章構成や論理展開を的確に読み取る力が強化されます。また、社会的なトピックに対して自分の考えを論理的かつ説得力を持って日本語で表現できるようになり、総合的な読解力と発信力が向上します							
事前学習							
配布資料の語彙調べ、予習としての音読							
事後学習							
内容確認の復習、自身の見解の整理、音読、教員の指示による適宜調べ学習							
授業計画							
第1回	ガイダンス 2年次の読解に求められる論理的視点について						
第2回	読み物①(論説) 全体読み・パラグラフリーディング・口頭QA						
第3回	読み物①(論説) パラグラフリーディング・口頭QA・記述問題						
第4回	読み物②(社説) 全体読み・パラグラフリーディング・口頭QA						
第5回	読み物②(社説) パラグラフリーディング・口頭QA・記述問題						
第6回	読み物③(批評) 全体読み・パラグラフリーディング・口頭QA						
第7回	読み物③(批評) パラグラフリーディング・口頭QA・記述問題						
第8回	読み物④(論説) 全体読み・パラグラフリーディング・口頭QA						
第9回	読み物④(論説) パラグラフリーディング・口頭QA・記述問題						
第10回	読み物⑤(社説) 全体読み・パラグラフリーディング・口頭QA						
第11回	読み物⑤(社説) パラグラフリーディング・口頭QA・記述問題						
第12回	読み物⑥(専門コラム) 全体読み・パラグラフリーディング・口頭QA						
第13回	読み物⑥(専門コラム) パラグラフリーディング・口頭QA・記述問題						
第14回	総復習 前期の学習内容のまとめと振り返り						
第15回	テスト						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		60					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		40					
その他		0					
教科書							
特になし							
参考書							
適宜使用							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際教養					
学年		2年					
科目名		実用外国語Ⅳ					
開講期	2026年度	開講学期	後期	単位	2	授業回数	15回
担当教員	新里 未沙子						
到達目標							
読解学習の集大成として、抽象的なテーマや複数の視点が含まれる高度な日本語文章を読み解く力を完成させます。文章を批判的に読み、テキストの内容に対して疑問を持ちながら分析する能力を深化させます。最終的には、大学教育やビジネスの現場で通用するアカデミックな読解・分析スキルを習得することを目指します。							
講義概要							
前期に引き続き、高度な論説、学術的なエッセイ、時事解説などを使用します。ペア・グループワークによるディスカッションや、関連する内容の調べ学習を取り入れ、多角的な視点からテキストを分析します。内容確認のQAに加え、批判的な視点に基づいた小レポート(記述アウトプット)を重視します。							
学修成果							
多様で高度な文章を通じ、最高レベルの読解力と分析力が身につきます。自分の考えを論理的かつ批判的な視点を持って日本語で的確に発信する力が養われ、進学や就職の面接、レポート作成等においても自信を持って対応できるようになります。							
事前学習							
配布資料の語彙調べ、予習としての音読							
事後学習							
内容確認の復習、自身の見解の整理、音読 教員の指示により適宜調べ学習							
授業計画							
第1回	ガイダンス 批判的読解(クリティカル・リーディング)の重要性						
第2回	読み物①(学術随筆) 全体読み・パラグラフフリーディング・口頭QA						
第3回	読み物①(学術随筆) パラグラフフリーディング・ディスカッション・記述課題						
第4回	読み物②(時事分析) 全体読み・パラグラフフリーディング・口頭QA						
第5回	読み物②(時事分析) パラグラフフリーディング・ディスカッション・記述課題						
第6回	読み物③(文化論) 全体読み・パラグラフフリーディング・口頭QA						
第7回	読み物③(文化論) パラグラフフリーディング・ディスカッション・記述課題						
第8回	読み物④(社会批評) 全体読み・パラグラフフリーディング・口頭QA						
第9回	読み物④(社会批評) パラグラフフリーディング・ディスカッション・記述課題						
第10回	読み物⑤(経済コラム) 全体読み・パラグラフフリーディング・口頭QA						
第11回	読み物⑤(経済コラム) パラグラフフリーディング・ディスカッション・記述課題						
第12回	読み物⑥(総合論考) 全体読み・パラグラフフリーディング・口頭QA						
第13回	読み物⑥(総合論考) パラグラフフリーディング・ディスカッション・記述課題						
第14回	総復習 2年間の読解学習の総括						
第15回	テスト						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		60					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		40					
その他		0					
教科書							
特になし							
参考書							
適宜使用							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際教養					
学年		2年					
科目名		ビジネス外国語Ⅲ					
開講期	2026年度	開講学期	前期	単位	1	授業回数	15回
担当教員	Joseph Johnston						
到達目標							
到達目標CEFR:A2～B1							
到達目標TOEIC L&Rスコア:400～600点程度							
TOEIC L&Rテストに必要なとなる語彙・文法・リスニング・リーディングの基礎力を養成するとともに、問題演習を通じて英語を理解し、実践的に活用する力を身につける。あわせて、英語による情報理解力およびコミュニケーション能力の向上を図り、継続的に英語学習へ取り組む姿勢を養う。							
講義概要							
語彙・文法・リスニング・リーディングの基礎事項を体系的に学習するとともに、演習問題を通じて解答力および実践的な英語運用能力を養成する。授業では、日本語による解説を適宜取り入れながら、英語理解を深め、段階的なスコア向上を目指す。							
学修成果							
学生は、TOEIC L&Rテストに必要な基礎的英語力を身につけ、語彙・文法・読解・聴解に関する理解を深めるとともに、英語による情報理解力および実践的なコミュニケーション能力を向上させることができる。							
事前学習							
各Unitの語彙・文法事項および問題形式を事前に確認し、不明な単語や表現について調べたうえで授業に参加すること。							
事後学習							
授業で扱った問題や解説内容を復習し、語彙・文法事項の定着を図ること。また、リスニング音声の反復練習や問題演習を継続的にを行い、TOEIC形式への理解を深めること。							
授業計画							
第1回	導入 Fundamentals:Unit 1①						
第2回	Fundamentals:Unit 1②						
第3回	Fundamentals:Unit 2①						
第4回	Fundamentals:Unit 2②						
第5回	Fundamentals:Unit 3①						
第6回	Fundamentals:Unit 3②						
第7回	Basic Skills:Unit 4①						
第8回	Basic Skills:Unit 4②						
第9回	Basic Skills:Unit 5①						
第10回	Basic Skills:Unit 5②						
第11回	Basic Skills:Unit 6①						
第12回	Basic Skills:Unit 6②						
第13回	Review: Unit 1 – Unit 3						
第14回	Review: Unit 4 – Unit 6						
第13回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他		0					
教科書							
LEVEL-UP TRAINER FOR THE TOEIC TEST (センゲージラーニング株式会社)							
参考書							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際教養					
学年		2年					
科目名		ビジネス外国語Ⅲ					
開講期	2026年度	開講学期	前期	単位	1	授業回数	15回
担当教員	京塚 在裕美／尾崎 亜寿香						
到達目標							
到達目標CEFR:A2～B1 到達目標TOEIC L&Rスコア:350～550点程度 接客・観光場面において必要となる基本的な英語表現を理解し、状況に応じた適切なコミュニケーションができる力を養う。また、英語による応対力および発信力を高め、観光・サービス分野で求められる実践的な英語運用能力の習得を目指す。							
講義概要							
ホテル、レストラン、交通機関、観光案内などを想定したロールプレイや会話練習を通じて、聞く・話すを中心としたコミュニケーション能力を養成する。また、外国人観光客への対応を想定し、異文化理解やホスピタリティ意識についても学習を行う。							
学修成果							
学生は、観光・接客場面における基本的な英語表現を理解し、状況に応じた適切な応対やコミュニケーションを英語で行うことができるようになる。							
事前学習							
各Unitの単語・表現・会話例を事前に確認し、意味や発音を理解したうえで授業に参加すること。必要に応じて音読練習を行うこと。							
事後学習							
授業で学習した表現や会話例を復習し、ロールプレイや音読を通じて定着を図ること。また、観光・接客場面で使用できる英語表現を継続的に整理・確認すること。							
授業計画							
第1回	導入 【初級編】Unit 1- Unit 3						
第2回	【初級編】 Unit 4- Unit 6						
第3回	【初級編】 Unit 7- Unit 9						
第4回	【初級編】 Unit 10- Unit 12						
第5回	【初級編】 Unit 13- Unit 15						
第6回	【初級編】 Unit 16- Unit 18						
第7回	【初級編】 Unit 19- Unit 21						
第8回	【初級編】 Unit 22- Unit 25						
第9回	【中級編】 Unit 1- Unit 3						
第10回	【中級編】 Unit 4- Unit 6						
第11回	【中級編】 Unit 7- Unit 9						
第12回	復習:【初級編】Unit 1 - Unit 12						
第13回	復習:【初級編】Unit 13 - Unit 25						
第14回	復習:【中級編】Unit 1 - Unit 9						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他		0					
教科書							
おもてなし英会話検定(祥伝社)							
参考書							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際教養					
学年		2年					
科目名		ビジネス外国語Ⅳ					
開講期	2026年度	開講学期	後期	単位	1	授業回数	15回
担当教員	Joseph Johnston						
到達目標							
到達目標CEFR:A2～B1 到達目標TOEIC L&Rスコア:400～600点程度 TOEIC L&Rテストに必要な語彙・文法・リスニング・リーディングの基礎力を養成するとともに、問題演習を通じて英語を理解し、実践的に活用する力を身につける。あわせて、英語による情報理解力およびコミュニケーション能力の向上を図り、継続的に英語学習へ取り組む姿勢を養う。							
講義概要							
語彙・文法・リスニング・リーディングの基礎事項を体系的に学習するとともに、演習問題を通じて解答力および実践的な英語運用能力を養成する。授業では、日本語による解説を適宜取り入れながら、英語理解を深め、段階的なスコア向上を目指す。							
学修成果							
学生は、TOEIC L&Rテストに必要な基礎的英語力を身につけ、語彙・文法・読解・聴解に関する理解を深めるとともに、英語による情報理解力および実践的なコミュニケーション能力を向上させることができる。							
事前学習							
各Unitの語彙・文法事項および問題形式を事前に確認し、不明な単語や表現について調べたうえで授業に参加すること。							
事後学習							
授業で扱った問題や解説内容を復習し、語彙・文法事項の定着を図ること。また、リスニング音声の反復練習や問題演習を継続的にを行い、TOEIC形式への理解を深めること。							
授業計画							
第1回	Basic Skills:Unit 7①						
第2回	Basic Skills:Unit 7②						
第3回	Basic Skills:Unit 8①						
第4回	Basic Skills:Unit 8②						
第5回	Basic Skills:Unit 9①						
第6回	Basic Skills:Unit 9②						
第7回	Advanced Skills:Unit 10①						
第8回	Advanced Skills:Unit 10②						
第9回	Advanced Skills:Unit 11①						
第10回	Advanced Skills:Unit 11②						
第11回	Advanced Skills:Unit 12①						
第12回	Advanced Skills:Unit 12②						
第13回	Review: Unit 7 - Unit 9						
第14回	Review: Unit 10 - Unit 12						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他		0					
教科書							
LEVEL-UP TRAINER FOR THE TOEIC TEST(センダー・ラーニング株式会社)							
参考書							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際教養					
学年		2年					
科目名		ビジネス外国語Ⅳ					
開講期	2026年度	開講学期	後期	単位	1	授業回数	15回
担当教員	京塚 在裕美／尾崎 亜寿香						
到達目標							
到達目標CEFR:A2～B1 到達目標TOEIC L&Rスコア:350～550点程度 接客・観光場面において必要となる基本的な英語表現を理解し、状況に応じた適切なコミュニケーションができる力を養う。また、英語による応対および発信力を高め、観光・サービス分野で求められる実践的な英語運用能力の習得を目指す。							
講義概要							
ホテル、レストラン、交通機関、観光案内などを想定したロールプレイや会話練習を通じて、聞く・話すを中心としたコミュニケーション能力を養成する。また、外国人観光客への対応を想定し、異文化理解やホスピタリティ意識についても学習を行う。							
学修成果							
学生は、観光・接客場面における基本的な英語表現を理解し、状況に応じた適切な応対やコミュニケーションを英語で行うことができるようになる。							
事前学習							
各Unitの単語・表現・会話例を事前に確認し、意味や発音を理解したうえで授業に参加すること。必要に応じて音読練習を行うこと。							
事後学習							
授業で学習した表現や会話例を復習し、ロールプレイや音読を通じて定着を図ること。また、観光・接客場面で使用できる英語表現を継続的に整理・確認すること。							
授業計画							
第1回	【中級編】 Unit 10～ Unit 12						
第2回	【中級編】 Unit 13～ Unit 15						
第3回	【中級編】 Unit 16～ Unit 18						
第4回	【中級編】 Unit 19～ Unit 21						
第5回	【中級編】 Unit 22～ Unit 25						
第6回	【上級編】 Unit 1～ Unit 4						
第7回	【上級編】 Unit 5～ Unit 8						
第8回	【上級編】 Unit 9～ Unit 12						
第9回	【上級編】 Unit 13～ Unit 16						
第10回	【上級編】 Unit 17～ Unit 20						
第11回	【上級編】 Unit 21～ Unit 25						
第12回	復習:【中級編】Unit 10～ Unit 25						
第13回	復習:【上級編】Unit 1～ Unit 12						
第14回	復習:【上級編】Unit 13～ Unit 25						
第13回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他		0					
教科書							
おもてなし英会話検定(祥伝社)							
参考書							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際教養					
学年		2年					
科目名		ホスピタリティ I					
開講期	2026年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15回
担当教員	鈴木 麻里						
到達目標							
多様な利用者や社会状況への理解を深め、相手の立場に立って必要な配慮や行動を考察できる。また、調査・発表・演習を通じて課題を多角的に分析し、他者と協働しながら解決に向けた行動を検討できる。							
講義概要							
サービス産業や地域社会への理解を基盤に、ホスピタリティの本質を個人・集団・社会の視点から多面的に考察する。ユニバーサルサービス、災害時対応、異文化理解などを通じて、相手の立場に立って考え行動する姿勢を養うとともに、多様な社会課題に向き合う視点と実践力を培う。							
学修成果							
地域社会やサービス産業における課題を踏まえ、多様な価値観や文化背景を考慮したコミュニケーションや対応を選択できるようになる。さらに、協働活動やプレゼンテーションを通じて視野を広げ、自身のキャリア形成に必要な問題意識と主体性を身につける。							
事前学習							
各回の内容に合わせた事前学習を指定							
事後学習							
・配布資料および返却されたワークシートの復習 ・講義内で提出できなかったワークシートについて、理解できるまで調べて完成させ、次週に提出する ・各回のトピックスに沿った取り組み課題を生活の中で実践し、達成状況を報告する ・事前学習・事後学習の目安時間 30分／1日							
授業計画							
第1回	ホスピタリティ1: 産業構造とサービスの本質						
第2回	地域産業の理解1: 日本各地の産業特性						
第3回	地域産業の理解2: 地方の魅力プレゼンテーション						
第4回	共生社会の実現1: ユニバーサルサービス						
第5回	共生社会の実現2: 多様な価値観と社会課題						
第6回	小テスト						
第7回	ホスピタリティ2: 企業研究プレゼンテーション						
第8回	顧客理解とニーズ把握: ケース分析						
第9回	ホスピタリティ実践演習: 案内・説明・配慮の実践						
第10回	災害時のコミュニケーション1: 情報収集と伝達						
第11回	災害時のコミュニケーション2: チームコミュニケーション演習						
第12回	小テスト						
第13回	異文化対応とサービスギャップ1: 課題理解						
第14回	異文化対応とサービスギャップ2: 振り返りと改善提案						
第15回	総合考察: 都市生活におけるホスピタリティの設計						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		60	小テスト(2回)				
定期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		40	ワークシートの提出 20% 発表・プレゼンテーション 10% 受講マナー・講義への取り組み 10%				
その他		0					
教科書							
毎回講義レジュメを使用							
参考書							
必要時に紹介							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際教養					
学年		2年					
科目名		ホスピタリティⅡ					
開講期	2026年度	開講学期	後期	単位	2	授業回数	15回
担当教員	平野朝子						
到達目標							
効果的なビジネスコミュニケーションに必要な考え方とスキル 及び その実現のためのセルフマネジメントとヒューマンスキルを理解できるようにする。							
講義概要							
ビジネス場面で話が伝わらない、話がすれ違うメカニズムを理解し、相手や場が求める要件に一致するコミュニケーションの実現に必要な考え方とスキルを、コミュニケーションの構成要素、WHAT・HOW・WHYの各要点、相手のタイプ別での効果的な働きかけ方、ビジネスコミュニケーションにおける行動心理の観点から理解し、ロールプレイやディスカッションによるTry&Errorを繰り返すことで活用できるようにする。							
学修成果							
求める結果や場の変化に必要な、自分の伝えたいことが相手に正しく伝わる、また、相手が自分に伝えたいことを正しく受け取るコミュニケーションの考え方とスキルを習得する。							
事前学習							
講師が指定する宿題を事前学習としておこなっておく。60分程度							
事後学習							
各回の学習内容について、実践できるように復習する。60分程度							
授業計画							
第1回	仕事の指示を受ける場面での優先順位付けと判断・対応を鍛えるケーススタディ基礎編①						
第2回	仕事の指示を受ける場面での優先順位付けと判断・対応を鍛えるケーススタディ基礎編②						
第3回	仕事の指示を受ける場面での優先順位付けと判断・対応を鍛えるケーススタディ応用編①						
第4回	仕事の指示を受ける場面での優先順位付けと判断・対応を鍛えるケーススタディ応用編②						
第5回	仕事における意思決定場面での優先順位付けと決定軸を鍛えるケーススタディ基礎編①						
第6回	仕事における意思決定場面での優先順位付けと決定軸を鍛えるケーススタディ基礎編②						
第7回	仕事における意思決定場面での優先順位付けと決定軸を鍛えるケーススタディ基礎編③						
第8回	仕事における意思決定場面での優先順位付けと決定軸を鍛えるケーススタディ応用編①						
第9回	仕事における意思決定場面での優先順位付けと決定軸を鍛えるケーススタディ応用編②						
第10回	仕事における意思決定場面での優先順位付けと決定軸を鍛えるケーススタディ応用編③						
第11回	仕事のトラブル事例での優先順位付けと判断・段取り力を鍛えるケーススタディ基礎編①						
第12回	仕事のトラブル事例での優先順位付けと判断・段取り力を鍛えるケーススタディ基礎編②						
第13回	仕事のトラブル事例での優先順位付けと判断・段取り力を鍛えるケーススタディ基礎編③／応用編①						
第14回	仕事のトラブル事例での優先順位付けと判断・段取り力を鍛えるケーススタディ応用編②						
第15回	仕事のトラブル事例での優先順位付けと判断・段取り力を鍛えるケーススタディ応用編③						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		50					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		50					
その他							
教科書							
教科書は指定せず、適宜、プリント等を配布							
参考書							
適宜引用							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際教養					
学年		2年					
科目名		外国語会話Ⅲ					
開講期	2026年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15回
担当教員	伊藤健一郎						
到達目標							
日本留学試験総合科目問題を基に、一般教養を身につけると同時にトピック内容に伴う日本語の言語知識も獲得する。							
講義概要							
本講義では日本留学試験総合科目問題を教材として使い、日本と世界の地理・歴史・政治・経済に関して視野を広げ、見識を深める。							
学修成果							
日本留学試験・日本語能力試験で高得点を獲得すること。現代社会人として相応しい一般教養を身につけること。							
事前学習							
各試験問題演習							
事後学習							
講義内容の振り返り							
授業計画							
第1回	授業ガイダンス						
第2回	発電エネルギー						
第3回	生態系						
第4回	国連						
第5回	需要と供給						
第6回	為替レートと日本経済						
第7回	経済成長率						
第8回	緯度・経度・時差						
第9回	世界の気候						
第10回	帝国主義						
第11回	世界の人口						
第12回	多文化共生						
第13回	国家						
第14回	期末試験ガイダンス						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		60					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		40					
その他		0					
教科書							
適宜プリント等で対応							
参考書							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際教養					
学年		2年					
科目名		外国語会話Ⅳ					
開講期	2026年度	開講学期	後期	単位	2	授業回数	15回
担当教員	伊藤健一郎						
到達目標							
日本留学試験総合科目問題を基に、一般教養を身につけると同時にトピック内容に伴う日本語の言語知識も獲得する。							
講義概要							
本講義では日本留学試験総合科目問題を教材として使い、日本と世界の地理・歴史・政治・経済に関して視野を広げ、見識を深める。							
学修成果							
日本留学試験・日本語能力試験で高得点を獲得すること。現代社会人として相応しい一般教養を身につけること。							
事前学習							
各試験問題演習							
事後学習							
講義内容の振り返り							
授業計画							
第1回	前期総括・後期ガイダンス						
第2回	パンデミック						
第3回	第一次世界大戦						
第4回	パンゲア						
第5回	地震と津波						
第6回	景気変動						
第7回	高度経済成長期						
第8回	図法						
第9回	日本の農林水産業						
第10回	憲法						
第11回	第二次世界大戦						
第12回	産業革命						
第13回	イスラエルと中東諸国						
第14回	期末試験ガイダンス						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		60					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		40					
その他		0					
教科書							
適宜プリント等で対応							
参考書							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ

コース		国際教養					
学年		2年					
科目名		総合外国語Ⅲ					
開講期	2026年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15回
担当教員	浅野卓夫						
到達目標							
大学レベルの学術的な文章を書くために必要な、論理的思考に基づく表現、文法、作文の応用知識を習得する。							
講義概要							
現在の日本の大学や企業では、言語・情報・知識を活用して自分で考え、判断し、自分の意見を表現する能力が重視される。本講義では、日本留学試験(EJU)の記述問題、大学学部別の留学生向け入学試験の小論文問題に取り組みながら、そのような能力の基盤となる論理的な文章表現の技術を習得することをめざす。							
学修成果							
専門的な内容の記述文や小論文などを作成することができるようになる。また、論理的思考に基づくコミュニケーション能力を身につけることができる。							
事前学習							
講師が指定する宿題を事前学習としておこなっておく。60分程度							
事後学習							
各回の学習内容について、実践できるように復習する。60分程度							
授業計画							
第1回	講義ガイダンス						
第2回	記述問題・小論文を書く前に1 よい記述文・小論文とは						
第3回	記述問題・小論文を書く前に2 記述文・小論文の型						
第4回	記述問題・小論文を書く前に3 型を選んで使いこなす						
第5回	記述問題・小論文を書く前に4 記述文・小論文を書くときの注意点						
第6回	記述問題1 日本留学試験「記述」とは						
第7回	記述問題2 よい記述文とは						
第8回	記述問題3 優れた記述文に改める						
第9回	記述問題の実践練習1(環境)						
第10回	記述問題の実践練習2(食料)						
第11回	記述問題の実践練習3(教育)						
第12回	記述問題の実践練習4(異文化理解)						
第13回	記述問題の実践練習5(経済)						
第14回	授業の振り返り						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他		0					
教科書							
樋口裕一『めざせ大学合格！ 留学生のための記述・小論文』(くろしお出版、2022年)							
参考書							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際教養					
学年		2年					
科目名		総合外国語Ⅳ					
開講期	2026年度	開講学期	後期	単位	2	授業回数	15回
担当教員	浅野卓夫						
到達目標							
大学レベルの学術的な文章を書くために必要な、論理的思考に基づく表現、文法、作文の応用知識を習得する。							
講義概要							
現在の日本の大学や企業では、言語・情報・知識を活用して自分で考え、判断し、自分の意見を表現する能力が重視される。本講義では、日本留学試験(EJU)の記述問題、大学学部別の留学生向け入学試験の小論文問題に取り組みながら、そのような能力の基盤となる論理的な文章表現の技術を習得することをめざす。							
学修成果							
専門的な内容の記述文や小論文などを作成することができるようになる。また、論理的思考に基づくコミュニケーション能力を身につけることができる。							
事前学習							
講師が指定する宿題を事前学習としておこなっておく。60分程度							
事後学習							
各回の学習内容について、実践できるように復習する。60分程度							
授業計画							
第1回	講義ガイダンス						
第2回	基本的な小論文問題 1 大学学部別の小論文問題とは						
第3回	基本的な小論文問題 2 基本的な小論文の書き方						
第4回	基本的な小論文問題 3 私的な内容を問う小論文の書き方						
第5回	基本的な小論文問題 4 基本的な小論文問題の実践練習						
第6回	課題文付き小論文問題 1 課題文の読み取り方						
第7回	課題文付き小論文問題 2 課題文付き小論文の書き方						
第8回	課題文付き小論文問題 3 説明問題・要約問題の書き方						
第9回	課題文付き小論文問題 4 グラフ・表付き小論文の書き方						
第10回	課題文付き小論文問題の実践練習 1						
第11回	課題文付き小論文問題の実践練習 2						
第12回	課題文付き小論文問題の実践練習 3						
第13回	課題文付き小論文問題の実践練習 4						
第14回	授業の振り返り						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		70					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他		0					
教科書							
樋口裕一『めざせ大学合格！ 留学生のための記述・小論文』(くろしお出版、2022年)							
参考書							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際教養					
学年		2年					
科目名		プレゼンテーションⅢ					
開講期	2026年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15回
担当教員	嵐 洋平						
到達目標							
主体的に学習し、自身の意見を主張したり、他の学生の意見を聞いて見識を深めることができる。異なる言語、文化を持つ者同士が日本語の「対話」によるコミュニケーションを円滑に図ることができるようになる。							
講義概要							
教育、自然科学、社会、経済、世界情勢などのテーマについて、課題文を読み、タスクワークを行う。タスクについての議論を行い、自身や相手の意見の相違などを理解する。ユニットの最後にはテーマに関連したグループ発表を行う。							
学修成果							
○現時点の自身の日本語力を知る。著作権について理解する。 ○自分の国や他の国の教育の問題点を解決するために何をしたらよいか、考えて話し合うことができる。 ○科学技術に関する話題について、自分の考えをまとめて、論理的に説明することができる。							
事前学習							
発表活動の準備等							
事後学習							
なし							
授業計画							
第1回	授業ガイダンス UNIT0「上級レベルの日本語力について」						
第2回	UNIT0「対話とは」						
第3回	UNIT0「プレゼンにおける著作権について」						
第4回	UNIT1「現代の学校教育に求められること」						
第5回	UNIT1「教育に関わる問題」						
第6回	UNIT1「これからの時代に必要な教育とは」						
第7回	UNIT1発表活動のための準備						
第8回	発表						
第9回	UNIT2「人間の進化と言語の獲得」						
第10回	UNIT2「空間はゆがんでいるか」						
第11回	UNIT2「科学は人間を幸せにするか」						
第12回	UNIT2「科学は人間を幸せにするか」						
第13回	UNIT2発表活動のための準備						
第14回	発表						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		30	テーマ理解度テスト				
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		70	発表・各課タスクの取組み				
その他		0					
教科書							
『人と社会をつなぐ日本語上級』							
参考書							
なし							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ								
コース		国際教養						
学年		2年						
科目名		プレゼンテーションⅣ						
開講期	2026年度		開講学期	後期	単位	2	授業回数	15回
担当教員	嵐 洋平							
到達目標								
主体的に学習し、自身の意見を主張したり、他の学生の意見を聞いて見識を深めることができる。異なる言語、文化を持つ者同士が日本語の「対話」によるコミュニケーションを円滑に図ることができるようになる。								
講義概要								
教育、自然科学、社会、経済、世界情勢などのテーマについて、課題文を読み、タスクワークを行う。タスクについての議論を行い、自身や相手の意見の相違などを理解する。ユニットの最後にはテーマに関連したグループ発表を行う。								
学修成果								
○自分や他者や社会とのつながりについて考え、自分の考えを述べたり、話し合ったりすることができる。 ○経済に影響を与える問題の状況とその対策について調べて考え、意見を述べることができる。 ○世界で起きている問題について意見を交換したり、議論ができる。								
事前学習								
発表活動の準備等								
事後学習								
なし								
授業計画								
第1回	講義ガイダンス UNIT3「私の存在を考える～私とは何か～」							
第2回	UNIT3「生きるとは何か～他者とともに生きる～」							
第3回	UNIT3発表活動のための準備							
第4回	発表							
第5回	UNIT4「お金と幸せ」							
第6回	UNIT4「私たちの消費行動」							
第7回	UNIT4「経済に影響を与える問題について考える」							
第8回	UNIT4発表活動のための準備							
第9回	発表							
第10回	UNIT5「これまでの世界を知る～世界を転換させた出来事～」							
第11回	UNIT5「今の世界を考える～環境問題に関するデータを読み解く～」							
第12回	UNIT5「これからの世界へ向けて～私たちがするべきこと～」							
第13回	UNIT5発表活動のための準備							
第14回	発表							
第15回	期末試験							
成績評価の方法								
区分		割合(%)	内容					
定期試験		30	テーマ理解度テスト					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		70	発表・各課タスクの取組み					
その他		0						
教科書								
『人と社会をつなぐ日本語上級』								
参考書								
なし								

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際教養					
学年		2年					
科目名		時事研究Ⅲ					
開講期	2026年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15回
担当教員	新里 未沙子						
到達目標							
ニュースを通して聴解力と読解力を向上させます。具体的には内容確認や要約によって重要な情報を的確に把握する力を養います。また、読解を通じて複雑なビジネス情報や社会問題に対する理解を深めます。							
講義概要							
本授業では、ビジネス関連ニュースを教材に、日本語の聴解力と読解力の向上を目指します。ディクテーションを兼ねニュースを視聴し、内容確認や要約を行い情報を正確に把握します。その後ニュース文面の詳細読解により、これまで学んできたビジネス用語の実際の使用を確認しつつ理解を深めます。							
学修成果							
受講者は授業を通して、ニュースを視聴しそのおおまかな内容を要約できるようになる。また、ニュースを読み、詳細な情報を把握し背景や文脈を理解できるようになる。							
事前学習							
身の回りのニュースにアンテナを張っておく。							
事後学習							
視聴したニュースの音読・わからなかった語彙を調べる。							
授業計画							
第1回	ガイダンス・求められる姿勢について						
第2回	ニュース① 視聴・内容把握・語彙確認						
第3回	ニュース② 視聴・内容把握・語彙確認						
第4回	ニュース③ 視聴・内容把握・語彙確認						
第5回	ニュース④ 視聴・内容把握・語彙確認						
第6回	ニュース⑤ 視聴・内容把握・語彙確認						
第7回	ニュース⑥ 視聴・内容把握・語彙確認						
第8回	ニュース⑦ 視聴・内容把握・語彙確認						
第9回	ニュース⑧ 視聴・内容把握・語彙確認						
第10回	ニュース⑨ 視聴・内容把握・語彙確認						
第11回	ニュース⑩ 視聴・内容把握・語彙確認						
第12回	ニュース⑪ 視聴・内容把握・語彙確認						
第13回	ニュース⑫ 視聴・内容把握・語彙確認						
第14回	ニュース⑬ 視聴・内容把握・語彙確認						
第15回	テスト						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		60					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		40					
その他		0					
教科書							
なし							
参考書							
なし							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ

コース		国際教養					
学年		2年					
科目名		異文化コミュニケーションⅡ					
開講期	2026年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15回
担当教員	新里 未沙子						
到達目標							
・異文化間におけるコンフリクト(対立)の原因を理論的に分析し、解決策を提示できる。 ・特定の国や地域の文化的なコミュニケーションスタイルの特徴を理解し、適切に対応できる。 ・日本社会における多文化共生の課題について、自分の意見を論理的に述べることができる。							
講義概要							
「異文化コミュニケーションⅠ」で習得した基礎理論を基盤とし、本科目では具体的な事例研究(ケーススタディ)を通じて、異文化間での対立回避や合意形成のプロセスを深く学びます。ビジネス、教育、地域コミュニティなど、多様な場面で生じるコミュニケーション上の課題を取り上げ、客観的な分析と解決策の提案を行います。また、日本国内における多文化共生の現状についても議論を深めます。							
学修成果							
異文化環境下での問題発見・解決能力が向上し、グローバル社会で求められる高度な適応力と柔軟性が身につきます。また、ステレオタイプや偏見を排した客観的な視点を持ち、多様な背景を持つ人々と協働するための実践的なスキルが養われます。							
事前学習							
各回のテーマに関連する事例やニュースをリサーチする(目安:30分)							
事後学習							
講義内での議論や分析結果をまとめ、自身の行動指針を整理する(目安:30分)							
授業計画							
第1回	ガイダンス 「異文化コミュニケーションⅠ」の復習と本講義のねらい						
第2回	ステレオタイプと偏見 認識のゆがみとその社会的影響						
第3回	自文化中心主義の克服 異文化受容のプロセス(DMISモデル等)						
第4回	異文化間コンフリクト① 対立のメカニズムとコミュニケーションスタイル						
第5回	異文化間コンフリクト② 事例研究:ビジネス現場での誤解と修復						
第6回	異文化交渉の理論 グローバルスタンダードな交渉術とマナー						
第7回	組織文化と異文化 企業や学校における文化の衝突と融合						
第8回	ケーススタディ:アジア 近隣諸国とのコミュニケーション特性						
第9回	ケーススタディ:欧米 西欧諸国の価値観と意思決定プロセス						
第10回	多文化共生と日本社会① 在留外国人の現状と地域コミュニティ						
第11回	多文化共生と日本社会② 職場や学校での共生に向けた具体的な施策						
第12回	異文化適応とストレス カルチャーショックの段階と克服方法						
第13回	解決策の提案(ワーク) 特定のシナリオに対する改善案の作成						
第14回	プレゼンテーション 異文化理解を促進するためのプロジェクト提案						
第15回	試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		60					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		40					
その他		0					
教科書							
特定の書籍は指定せず、適宜レジュメやニュース記事(nippon.com等)を配布する							
参考書							
講義内で適宜紹介する。							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ

コース		国際教養					
学年		2年					
科目名		マーケティング戦略					
開講期	2026年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15回
担当教員	藤重武三						
到達目標							
・企業における戦略の全体像を理解する ・各戦略フレームワークとその相関関係を理解する ・理論の応用を身近な具体例で考えることで理解を深める							
講義概要							
・企業戦略の全体像のブレイクダウンから各戦略的思考や各種分析フレームワークを学習していく ・最近の新聞記事などからの事例を通して理解を深めていく ・講義はテキストに沿って行い、演習を実施して、双方向の質疑応答を重視する							
学修成果							
・各戦略フレームワークの手法を理解して、基本的な戦略立案ができるようになる ・戦略的な思考法を身につける事で、企業の課題発見とその解決に寄与できるようになる							
事前学習							
適宜、講師が指定した内容を事前に学習する							
事後学習							
毎回、前回の学習内容について復習後、新しい内容の学習に入る							
授業計画							
第1回	・授業ルールの説明 ・戦略とは？ ・大谷選手の戦略的思考 ・自身の夢と、その実現のための戦略を考えてみる						
第2回	・企業戦略とは？ ・企業の5つの責任 ・売上、原価、利益について						
第3回	・経営戦略のゴール ・丸亀製麺の幸福経営						
第4回	・3C分析(顧客) ・顧客の困り事の発見 ・本質的ニーズとは？						
第5回	・顧客ニーズの事例(クマ対策) ・3C分析(競合) 競合分析 ・3C分析(自社)						
第6回	・SWOT分析 USJ ・SWOTのクロス分析 ユニクロ						
第7回	・SWOT分析 オリエンタルランド ・PEST分析						
第8回	・競争戦略(低価格戦略) トライアル						
第9回	・低価格戦略 BYD ・安くする仕組み サイゼリア ・規模の経済						
第10回	・行列のできる格安店の秘密						
第11回	・競争戦略(差別化戦略) ・ビー・フォワードの差別化戦略						
第12回	・SHEINの差別化戦略 トラスコ中山の差別化戦略						
第13回	・競争戦略(集中戦略) ・アシックスの集中戦略						
第14回	総復習						
第15回	定期試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		70					
消試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		30					
その他		0					
教科書							
教科書は指定せず、テキストを配布							
参考書							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際教養					
学年		2年					
科目名		比較文化論Ⅰ					
開講期	2026年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15回
担当教員	金森尚人						
到達目標							
(1) 日本文化と諸外国文化の違いを具体的に説明できる。(2) 文化的背景による価値観の違いを理解できる。(3) 異文化間で生じる誤解や対立の原因を分析できる。							
講義概要							
日本文化と世界各国の文化を比較しながら、多文化共生社会に必要な「異文化理解力」と「国際的視点」を養う。宗教、価値観、コミュニケーション、教育、食文化、労働観、ジェンダー観、政治文化などを具体例を通して比較し、文化の違いが国際社会・ビジネス・国際関係にどのような影響を与えるかを学ぶ。また、留学生自身の文化背景を共有し、ディスカッションや発表を通して相互理解を深めることで、グローバル社会で必要な実践的コミュニケーション能力を身につける。							
学修成果							
(1) 日本文化と諸外国文化の違いを具体的に説明できる。(2) 文化的背景による価値観の違いを理解できる。(3) 異文化間で生じる誤解や対立の原因を分析できる。							
事前学習							
毎回の授業テーマについてニュースやインターネット等で情報収集を行う。							
事後学習							
授業内容を振り返り、自国文化との違いを整理する。ディスカッション内容をまとめ、自分の考えを書く。							
授業計画							
第1回	オリエンテーション／比較文化論とは何か ― 国際問題と文化・宗教の関係						
第2回	アメリカ・イスラエル・イラン問題から見る宗教・価値観・歴史認識の違い						
第3回	日本文化の特徴(和・空気・礼儀)						
第4回	アジア諸国の文化比較						
第5回	宗教と文化(イスラム教・仏教・ヒンドゥー教など)						
第6回	食文化の比較						
第7回	コミュニケーション文化の違い						
第8回	ジェンダー観と家族文化						
第9回	教育文化の比較						
第10回	労働観・時間感覚の違い						
第11回	観光と文化理解						
第12回	SNS・インターネットと若者文化						
第13回	多文化共生社会と外国人問題						
第14回	前期まとめ・復習						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		60	記述式				
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		40	課題提出、授業中の発表、グループディスカッション等				
その他		0					
教科+A47:BH48書							
教科書は指定せず、適宜、プリント等を配布							
参考書							
国内外のニュース、Webサイトなどから適宜引用							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際教養					
学年		2年					
科目名		比較文化論 II					
開講期	2026年度	開講学期	後期	単位	2	授業回数	15回
担当教員	金森尚人						
到達目標							
(1) 多文化共生社会に必要な考え方や行動を説明できる。(2) 自国文化を客観的に比較・説明できる。(3) 国際社会や国際ビジネスにおける文化理解の重要性を理解できる。							
講義概要							
日本文化と世界各国の文化を比較しながら、多文化共生社会に必要な「異文化理解力」と「国際的視点」を養う。 宗教・価値観、コミュニケーション、教育、食文化、労働観、ジェンダー観、政治文化などを具体例を通して比較し、文化の違いが国際社会・ビジネス・国際関係にどのような影響を与えるかを学ぶ。 また、留学生自身の文化背景を共有し、ディスカッションや発表を通して相互理解を深めることで、グローバル社会で必要な実践的コミュニケーション能力を身につける。							
学修成果							
(1) 自国文化を説明するプレゼンテーション能力 (2) 国際問題を文化的観点から分析する能力 (3) 多様な価値観を理解し協働する能力							
事前学習							
毎回の授業テーマについてニュースやインターネット等で情報収集を行う。							
事後学習							
授業内容を振り返り、自国文化との違いを整理する。ディスカッション内容をまとめ、自分の考えを書く。							
授業計画							
第1回	前期復習／文化と国際社会						
第2回	偏見・ステレオタイプとは何か						
第3回	移民・難民と文化摩擦						
第4回	異文化コミュニケーションの失敗事例						
第5回	日本企業と外国人労働者						
第6回	国際結婚と文化の違い						
第7回	映画・アニメから見る文化比較						
第8回	言語と文化の関係						
第9回	世界のマナーとタブー						
第10回	ナショナリズムと文化						
第11回	グローバル化と文化の均一化						
第12回	SDGsと多文化共生						
第13回	自国文化紹介プレゼン準備						
第14回	プレゼンテーションと総復習						
第15回	後期期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		60	記述式				
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		40	課題提出、授業中の発表、グループディスカッション等				
その他		0					
教科書							
教科書は指定せず、適宜、プリント等を配布							
参考書							
国内外のニュース、Webサイトなどから適宜引用							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際教養					
学年		2年					
科目名		地域研究Ⅰ					
開講期	2026年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15回
担当教員	新里 未沙子						
到達目標							
・日本国内の各地域(47都道府県)の名称、場所、主要な地理的・文化的特性が説明できる。 ・地域社会が抱える問題(人口減少、災害、産業衰退など)とその発生要因を理解できる。 ・地域の特性を活かした課題解決に向けた提案や、多文化共生・地域創生のあり方について意見を発信できる。							
講義概要							
本科目では、日本国内の各地域の地理的特性、歴史、文化を理解するとともに、現代の地域社会が抱える諸課題について多角的な視点から学びます。具体的には、47都道府県の概要を確認した上で、人口減少や少子高齢化、産業構造の変化などが地域に与える影響を考察します。講義では事例検討やディスカッションを取り入れ、学生が主体的に地域の現状を捉え、課題解決に向けたアプローチを考える力を養います。日本国内の地理的知識を深めるだけでなく、地方創生や少子高齢化といった現実的な社会課題を組み込むことで、より実践的な「地域研究」をします。							
学修成果							
日本の文化や社会背景を深く学習することで、日本社会で生活・就職していく上で欠かせない一般教養と、日本語による論理的な発信力が身につきます。また、地域のデータを分析・調査・考察する能力が養われ、社会人として必要な問題発見・解決能力の基礎を獲得できます。							
事前学習							
各回の対象地域や社会問題についてニュースや資料を事前にチェックし、要点を整理しておく(目安:60分)							
事後学習							
配布資料を整理し、講義内での議論や自身の考察をノートにまとめる(目安:60分)							
授業計画							
第1回	ガイダンス 「地域」の捉え方と日本の地域区分の確認						
第2回	47都道府県の概観 県名、県庁所在地、8つの地方区分の理解						
第3回	中央と地方の構造 都市部(東京圏)と地方の人口・経済格差						
第4回	北海道・東北地方 自然環境と観光資源、一次産業の現状						
第5回	関東地方 南北関東の特性、都市型課題と文化						
第6回	中部・北陸地方 伝統産業と地場産業の振興、ものづくりの特性						
第7回	近畿地方 伝統文化、歴史的遺産の保護と地域経済						
第8回	中国・四国地方 瀬戸内・中山間地域の特性と地域活性化事例						
第9回	九州・沖縄地方 アジアとの結びつき、独自の文化と戦略拠点						
第10回	地域課題を産む要因 人口減少・少子高齢化が地域に与える影響						
第11回	地方の特性と再生 農山漁村の現状と、地域資源を活かした活性化						
第12回	自然災害と地域防災 震災の歴史から学ぶ、持続可能な地域づくり						
第13回	移住と多文化共生 外国人労働者や移住者との地域コミュニティ形成						
第14回	地域課題の解決策提案 特定の地域を対象とした課題解決策のプレゼンテーション						
第15回	試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		60					
前試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		40					
その他		0					
教科書							
特定の教科書は指定せず、適宜レジュメや各種統計資料、ニュース記事を配布する。							
参考書							
『クロースアップ日本事情』(the japan times)、および講義内で適宜紹介する。							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ

コース		国際教養					
学年		2年					
科目名		地域研究Ⅱ					
開講期	2026年度	開講学期	後期	単位	2	授業回数	15回
担当教員	新里 未沙子						
到達目標							
・地域活性化に関する主要な理論（まちづくり、観光振興、産業支援等）が説明できる。 ・各地域の特性に応じた独自の成功要因や課題解決のプロセスの分析・評価ができる。 ・客観的なデータに基づき、地域社会が抱える具体的な課題に対して論理的な解決策を提案できる。							
講義概要							
「地域研究Ⅰ」で学んだ各地域の基礎知識と社会課題を踏まえ、本科目では「地域活性化・地域創生」の具体的なプロセスについて深く学びます。日本各地の成功・失敗事例（まちづくり、観光、DX等）をケーススタディとして扱い、多角的な視点から地域の持続可能性を探求します。講義後半では、学生自身が特定の地域を選び、その課題に対する具体的な解決策を立案・発表するプロジェクト学習（PBL）形式を取り入れます。知識の習得にとどまらず、実際の地域をモデルにした課題解決プロセスの実践に重点を置いています。これにより、前期で培った地理文化的教養を実社会で活用できるスキルへと昇華させることを狙いとしています。							
学修成果							
地域課題を「自分事」として捉え、情報を整理・分析し、他者と協働して解決策を導き出す能力が身につきます。また、将来日本社会の一員として働く上で必要となる、現場の視点を持った問題発見・解決能力、およびプレゼンテーション能力を獲得できます。							
事前学習							
各回のテーマに関連する自治体のHPや最新ニュースをチェックし、現状を把握しておく（目安：60分）							
事後学習							
演習での気づきやフィードバックを整理し、自分なりの改善案をノートにまとめる（目安：60分）							
授業計画							
第1回	ガイダンス 前期の復習と「地域創生」の概念確認						
第2回	観光と地域活性化 インバウンド効果とオーバーツーリズムへの対策						
第3回	伝統工芸や農産物のブランディング成功事例						
第4回	移住・定住促進策 Uターン・Iターンの動向と若者の働き方の多様化						
第5回	地域DXとスマートシティ デジタル技術を活用した行政・交通の効率化						
第6回	自然災害からの復興 震災遺構の活用と持続可能な防災コミュニティ						
第7回	環境・エネルギーと地域 小規模発電や資源循環（SDGs）の取り組み						
第8回	多文化共生社会の形成 外国人住民との協働による地域づくり						
第9回	地域分析演習① 統計データの読み解きと対象地域の選定						
第10回	地域分析演習② 現状分析と課題の抽出（SWOT分析等の活用）						
第11回	解決策の検討① 先進事例のリサーチと独自の解決アイデアの具体化						
第12回	解決策の検討② 実現可能性の検討とプレゼンテーション資料作成						
第13回	解決策の提案発表 チームまたは個人による地域課題解決の提案						
第14回	相互評価と総括 発表へのフィードバックを通じた学びの深化						
第15回	試験						
成績評価の方法							
区分		割合（％）	内容				
定期試験		60					
前試験以外（授業内の課題・参加度・出席態度等）		40					
その他		0					
教科書							
特定の教科書は指定せず、適宜レジュメや各種統計資料、ニュース記事を配布する。							
参考書							
講義内で適宜紹介する。							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際教養					
学年		2年					
科目名		就職ケーススタディⅠ					
開講期	2026年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15回
担当教員	平野朝子						
到達目標							
効果的なビジネスコミュニケーションに必要な考え方とスキル 及び その実現のためのセルフマネジメントとヒューマンスキルを理解できるようにする。							
講義概要							
ビジネス場面で話が伝わらない、話がすれ違うメカニズムを理解し、相手や場が求める要件に一致するコミュニケーションの実現に必要な考え方とスキルを、コミュニケーションの構成要素、WHAT・HOW・WHYの各要点、相手のタイプ別での効果的な働きかけ方、ビジネスコミュニケーションにおける行動心理の観点から理解し、ロールプレイやディスカッションによるTry&Errorを繰り返すことで活用できるようにする。							
学修成果							
求める結果や場の変化に必要な、自分の伝えたいことが相手に正しく伝わる、また、相手が自分に伝えたいことを正しく受け取るコミュニケーションの考え方とスキルを習得する。							
事前学習							
講師が指定する宿題を事前学習としておこなっておく。60分程度							
事後学習							
各回の学習内容について、実践できるように復習する。60分程度							
授業計画							
第1回	講義ガイダンス／ビジネスコミュニケーションのイントロダクション：このクラスで学ぶこと／現時点での自分のコミュニケーションの強み・工夫／ミス・コミュニケーションが起こる理由						
第2回	心理的背景が異なる相手とのコミュニケーション／共感力を上げるには／自分の見方を変えるには／事実と認識（ワーク）						
第3回	「伝える」から「伝わる」の実現に影響を与える3大心理メカニズム／アサーションスキル／見方を変える（ワーク）						
第4回	認識とパラダイム転換／アイデアキラー／「問題」とは何か						
第5回	要件一致とCSのコミュニケーションとそのスキル						
第6回	聴き手が求めるビジネスコミュニケーションスキル						
第7回	要件一致とCSのコミュニケーションとそのスキル実践／聴き手が求めるビジネスコミュニケーションスキル実践						
第8回	関係構築のためのコミュニケーションスキル①／関係構築のためのコミュニケーションスキル実践①						
第9回	関係構築のためのコミュニケーションスキル②／関係構築のためのコミュニケーションスキル実践②						
第10回	コミュニケーションスタイル／自分と他者のコミュニケーションスタイルの違いへの対処スキル						
第11回	コミュニケーションスタイル別効果的なコミュニケーション方法の実践①						
第12回	コミュニケーションスタイル別効果的なコミュニケーション方法の実践②						
第13回	目的を実現するためのコミュニケーションの実践①②／コミュニケーションのWHY・WHAT・HOW						
第14回	自分のコミュニケーションの強味・工夫の進化／ビジネスコミュニケーションまとめ						
第15回	期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合（％）	内容				
定期試験		50					
期試験以外（授業内の課題・参加度・出席回数等）		50					
その他							
教科書							
教科書は指定せず、適宜、プリント等を配布							
参考書							
適宜引用							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際教養					
学年		2年					
科目名		特別演習Ⅲ					
開講期	2026年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15回
担当教員	藤重 武三						
到達目標							
・企業における戦略の全体像を理解する ・各戦略フレームワークとその相関関係を理解する ・理論の応用を身近な具体例で考えることで理解を深める							
講義概要							
・各企業戦略の全体像のブレイクダウンから各戦略的思考や各種分析フレームワークを学習していく ・最近の新聞記事などからの事例を通して理解を深めていく ・講義はテキストに沿って行い、演習を実施して、双方向の質疑応答を重視する							
学修成果							
・各戦略フレームワークの手法を理解して、基本的な戦略立案ができるようになる ・戦略的な思考法を身につける事で、企業の課題発見とその解決に寄与できるようになる							
事前学習							
適宜、講師が指定した内容を事前に学習する							
事後学習							
毎回、前回の学習内容について復習後、新しい内容の学習に入る							
授業計画							
第1回	プロダクト・ライフ・サイクル② ステージ別戦略						
第2回	導入期の戦略①導入期に必要なマーケティング施策						
第3回	導入期の戦略②「空飛ぶクルマ」						
第4回	成長期の戦略 EV市場						
第5回	成熟期の戦略 市場地位別の戦略						
第6回	リーダー企業の戦略① 自動車市場						
第7回	リーダー企業の戦略② ウィスキー市場						
第8回	リーダー企業の戦略③ スマホ市場						
第9回	リーダー企業の戦略④ キリンビールの失敗						
第10回	チャレンジャーの戦略① キリン						
第11回	チャレンジャーの戦略② プラス						
第12回	フォロワーの戦略 赤城乳業						
第13回	ニッチャーの戦略① ラッキービエロ						
第14回	ニッチャーの戦略② ナミックス						
第15回	試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		100					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		0					
その他		0					
教科書							
教科書は指定せず、テキストを配布							
参考書							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際教養					
学年		2年					
科目名		特別演習Ⅳ					
開講期	2026年度	開講学期	後期	単位	2	授業回数	15回
担当教員	藤重 武三						
到達目標							
・企業における戦略の全体像を理解する ・各戦略フレームワークとその相関関係を理解する ・理論の応用を身近な具体例で考えることで理解を深める							
講義概要							
・企業戦略の全体像のブレイクダウンから各戦略的思考や各種分析フレームワークを学習していく ・最近の新聞記事などからの事例を通して理解を深めていく ・講義はテキストに沿って行い、演習を実施して、双方向の質疑応答を重視する							
学修成果							
・各戦略フレームワークの手法を理解して、基本的な戦略立案ができるようになる ・戦略的な思考法を身につける事で、企業の課題発見とその解決に寄与できるようになる							
事前学習							
適宜、講師が指定した内容を事前に学習する							
事後学習							
毎回、前回の学習内容について復習後、新しい内容の学習に入る							
授業計画							
第1回	ガイダンス						
第2回	ドメイン戦略						
第3回	アンゾフの成長ベクトル						
第4回	企業成長の方向性						
第5回	企業のコア・コンピタンス						
第6回	事業の染み出し						
第7回	事業ポートフォリオの組み替え①						
第8回	事業ポートフォリオの組み替え②						
第9回	不確実性の時代の経営戦略①						
第10回	不確実性の時代の経営戦略②						
第11回	利益の継続性①―機会の利用						
第12回	利益の継続性②―事業領域・差別化						
第13回	利益の継続性③―複合戦略・顧客の囲い込み						
第14回	マーケティング戦略・経営戦略総復習						
第15回	試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		100					
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		0					
その他		0					
教科書							
教科書は指定せず、テキストを配布							
参考書							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際教養					
学年		2年					
科目名		課程演習Ⅲ					
開講期	2026年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15回
担当教員	新里 未沙子						
到達目標							
・学術的な作法(だ・である体、適切な語彙、引用ルール)を遵守した文章が書ける。 ・先行資料を批判的に読み解き、その要旨を正確にまとめ、自分の意見と区別して記述できる。 ・論理構成(PREP法等)を駆使し、説得力のあるアウトラインを自点から設計できる。							
講義概要							
本科目は、論理的な文章を構築するための実践トレーニングに重点を置きます。毎回の講義では、短い文章の要約や論述などの執筆演習を行い、学生同士でのピア・レビュー(相互評価)を通じて客観的な視点を養います。研究テーマの選定から情報収集、アウトライン作成、そして最終的なレポート完成まで、ステップ・バイ・ステップで実際の執筆を進めるプロジェクト型学習(PBL)の形式をとります。「書くこと」そのものを授業のメインに据え、教員からの指導だけでなく学生同士の学び合い(ピア・ラーニング)を組み込むことで、より実践的なスキル習得を目指しています。							
学修成果							
実際に自分の手で文章を書き、他者からのフィードバックを受けて修正する経験を積むことで、大学教育やビジネス実務で即戦力となる高度な論理的発信力が身につきます。また、情報の信頼性を精査し、客観的な根拠に基づいて論述を組み立てる思考プロセスを体得できます。							
事前学習							
指定された資料の読解や、次回執筆分のメモ作成(目安:60分)							
事後学習							
授業での指摘を反映させた文章の書き直し、語彙・文法の復習(目安:60分)							
授業計画							
第1回	ガイダンス アカデミックライティングの復習と本演習の進め方(目標設定)						
第2回	要約演習① 短い論説文を読み、100字・200字で要約する						
第3回	要約演習② 前回の要約を相互に読み合い、改善点を指摘し合う						
第4回	テーマ設定ワーク マインドマップを使い、調査可能な「問い」を言語化する						
第5回	情報収集・評価演習 WebやDBで資料を探し、信頼性を評価・整理する						
第6回	構成設計ワーク PREP法を用いた論理アウトライン(骨子)の作成						
第7回	執筆演習:導入部 読者の関心を引く「問題提起」と「目的」を書く						
第8回	執筆演習:本論① 「事実」と「意見」を区別し、根拠を提示する						
第9回	執筆演習:本論② 対比・比較や因果関係を用いた論述の展開						
第10回	引用・参考文献実習 正しい形式での直接引用・間接引用とリスト作成						
第11回	推敲ワークショップ① 全体を通読し、論理的な飛躍や矛盾をセルフチェックする						
第12回	ピア・レビュー① 中間原稿をペアで交換し、アドバイスを送る						
第13回	リライト実習 フィードバックを基に文章の質をブラッシュアップする						
第14回	ピア・レビュー② 修正後の最終稿を確認し合い、完成度を高める						
第15回	成果発表・総括						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		60	レポート				
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		40					
その他		0					
教科書							
特になし							
参考書							
適宜使用							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ								
コース		国際教養						
学年		2年						
科目名		課程演習Ⅳ						
開講期	2026年度		開講学期	後期	単位	2	授業回数	15回
担当教員	新里 未沙子							
到達目標								
・数千字程度の専門的な文章において、序論から結論まで矛盾のない論理展開を構築できる。 ・先行文献や統計データを正確に引用・参照し、著作権や学術倫理に則った参考文献リストを作成できる。 ・自身の研究内容を客観的に要約し、他者からの批判的な質疑に対して論理的に応答できる。								
講義概要								
本科目は、前期に作成したアウトラインや調査資料を基に、大学レベルの専門的な論文・レポートを完結させることを目的とします。単に長く書くのではなく、論理的な一貫性、データの客観的分析、そして先行研究の適切な引用といった「アカデミック・ジャパニーズ」の高度な技法を演習を通じて磨きます。後半では、執筆した内容を他者に効果的に伝えるための「研究発表要旨(アブストラクト)」の作成訓練も行います。								
学修成果								
一連の執筆・推敲・発表プロセスを完遂することで、大学での学びやビジネスの専門業務において不可欠な「自走的な調査・執筆能力」が身につきます。また、論拠に基づいた説得力のある発信ができるようになり、論理的思考力と表現力が最高レベルまで高められます。								
事前学習								
各回の進捗に合わせた執筆作業、およびピア・レビュー用のコメント準備(目安:60分)								
事後学習								
指導・指摘された箇所の修正、および参考文献の追加調査(目安:60分)								
授業計画								
第1回	ガイダンス 前期の振り返りと後期の執筆スケジュールの確認							
第2回	文献調査の深化 先行研究の整理と自分の主張との関連付け							
第3回	本論の執筆演習① 具体的な事例提示とデータの客観的な分析方法							
第4回	本論の執筆演習② 因果関係の整理とパラグラフ間の論理的接続							
第5回	引用・注釈の実習 直接・間接引用の使い分けと注釈の入れ方							
第6回	ピア・レビュー② 中間原稿(本論部分)の相互評価とフィードバック							
第7回	結論の構築 序論の問いに対する回答と今後の課題の記述							
第8回	推敲: 語彙と文体 アカデミックな表現へのブラッシュアップ(表記の統一)							
第9回	参考文献リスト作成 出典情報の完全な記述とリストのフォーマット確認							
第10回	要旨(Abstract)作成 論文全体を数百字での確に要約するトレーニング							
第11回	ピア・レビュー③ 最終原稿に近い状態での全体構成チェック							
第12回	修正・リライト期間 フィードバックに基づいた最終的な文章の修正							
第13回	発表資料の作成 論文内容をスライドや配布資料へ再構成する							
第14回	成果発表ワークショップ 執筆内容のプレゼンテーションと質疑応答演習							
第15回	総括と最終提出 成果物の提出と今後の研究活動への振り返り							
成績評価の方法								
区分			割合(%)	内容				
定期試験			60	レポート				
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)			40					
その他			0					
教科書								
特になし								
参考書								
適宜使用								

専門学校東京国際ビジネスカレッジ

コース		国際教養					
学年		2年					
科目名		キャリアデザイン論Ⅰ					
開講期	2026年度	開講学期	前期	単位	2	授業回数	15回
担当教員	鈴木 麻里						
到達目標							
1年次で培った自己理解・社会理解・仕事理解を踏まえて将来像を具体化し、進学・就職活動に必要な自己表現を行うことができる。また、情報を収集・分析しながら他者と意見交換を行い、社会人として求められる対人対応と発信を統合的に実践できる。							
講義概要							
本講義では、自己理解を基盤に、進学・就職双方を見据えたキャリア形成力を養う。面接や文章作成に必要な自己表現力、論理的思考力、ビジネスコミュニケーションを実践的に高めるとともに、日本社会で求められる行動様式や対人マナーへの理解を深める。さらに、自らの強みを社会に向けて発信し、主体的に進路を設計する力を育成する。							
学修成果							
進路形成に必要な自己理解と言語化能力を高め、場面に応じたコミュニケーションやビジネスマナーを実践できるようになる。加えて、他者との協働や意見交換を通じて、多様な視点から自身のキャリアを再考し、主体的に進路選択へ結び付けることができる。							
事前学習							
各回の内容に合わせた事前学習を指定							
事後学習							
- 配布資料および返却されたワークシートの復習 - 講義内で提出できなかったワークシートについて、理解できるまで調べて完成させ、次週に提出する - 各回のトピックスに沿った取り組み課題を生活の中で実践し、達成状況を報告する - 事前学習・事後学習の目安時間　30分／1日							
授業計画							
第1回	前期講義オリエンテーション：2年間の目標設定と進路スケジュールの確認						
第2回	キャリア選択に向けた自己分析と言語化1：面接・エントリーシート対策						
第3回	印象のセルフマネジメント：挨拶・表情・立ち居振る舞い						
第4回	キャリア形成に必要なビジネスマナー						
第5回	ビジネスにおける言語コミュニケーション1						
第6回	メディアリテラシー1：情報の収集と発信						
第7回	メディアリテラシー2：論理的思考とディスカッション						
第8回	ビジネス文書1：社外文書の復習と内定承諾書作成						
第9回	ビジネス文書2：社内文書の基本						
第10回	ビジネスにおける言語コミュニケーション2						
第11回	総合実践演習：新入社員を想定したコミュニケーション実践						
第12回	職業理解1：業界理解のためのグループワーク						
第13回	職業理解2：志望職種の再検討と適性分析						
第14回	前期総括：自己理解から社会・産業理解への接続						
第15回	定期試験						
成績評価の方法							
区分		割合（％）	内容				
定期試験		60					
期試験以外（授業内の課題・参加度・出席態度等）		40	ワークシートの提出 20% 発表・プレゼンテーション 10% 受講マナー・講義への取り組み 10%				
その他		0					
教科書							
毎回講義レジュメを使用							
参考書							
必要時に紹介							

専門学校東京国際ビジネスカレッジ							
コース		国際教養					
学年		2年					
科目名		キャリアデザイン論Ⅱ					
開講期	2026年度	開講学期	後期	単位	2	授業回数	15回
担当教員	鈴木 麻里						
到達目標							
日本社会における慣習・文化・対人行動を背景から理解し、知識・教養・対人対応を場面に応じて活用できる。また、多様な文化や価値観を比較・考察しながら、自身の考えを再構築し、卒業後のキャリア形成に結び付けて考察できる。							
講義概要							
本講義では、日本社会における生活文化や行動様式への理解を深め、社会人として求められる実践的教養を養う。マナー、社会習慣、異文化比較を通じて価値観や文化背景を多角的に考察し、他者との協働を通して、多様な社会で活躍するための判断力と視野を培う。							
学修成果							
日本社会への理解を深め、社会的場面に応じた行動を自律的に選択できるようになる。加えて、比較・考察・発表・協働活動を通じて、多様な価値観をふまえた視点を獲得し、自身のキャリア像を具体化できる。							
事前学習							
各回の内容に合わせた事前学習を指定							
事後学習							
・配布資料および返却されたワークシートの復習 ・講義内で提出できなかったワークシートについて、理解できるまで調べて完成させ、次週に提出する ・各回のトピックスに沿った取り組み課題を生活の中で実践し、達成状況を報告する ・事前学習・事後学習の目安時間 30分／1日							
授業計画							
第1回	後期講義オリエンテーション						
第2回	日本社会の行動原理						
第3回	日本における対人関係の特徴						
第4回	社会習慣の理解1:日本のライフイベントとその背景						
第5回	社会習慣の理解2:グループプレゼンテーション						
第6回	慶事のマナー						
第7回	弔事のマナー						
第8回	文化教養と社交1:和食のマナー						
第9回	文化教養と社交2:洋食のマナー						
第10回	異文化比較1:食文化の比較						
第11回	異文化比較2:グループプレゼンテーション						
第12回	社会人常識の体系化1:総復習と過去問題演習						
第13回	社会人常識の体系化2:総復習と過去問題演習(応用)						
第14回	後期総合考察:社会理解を踏まえたキャリアビジョンの設計						
第15回	後期期末試験						
成績評価の方法							
区分		割合(%)	内容				
定期試験		50	ワークシートの提出 20% 発表・プレゼンテーション 20% 受講マナー・講義への取り組み 10%				
期試験以外(授業内の課題・参加度・出席態度等)		50					
その他		0					
教科書							
毎回講義レジュメを使用							
参考書							
必要時に紹介							